

今井康雄先生にお贈りする言葉

教育学科教授
田部俊充

今井康雄先生は、本年度をもって定年ご退職とされます。ここに謹んで今井康雄先生にお贈りする言葉を述べさせていただきます。

今井先生は岐阜県出身、広島大学教育学部を1977年3月に卒業され、1982年3月に同大学院教育学研究科博士課程後期課程単位取得退学、1994年7月20日に論文「ヴァルター・ベンヤミンの教育思想——メディア概念と教育との関係を中心として」により、広島大学より博士（教育学）の学位を取得されています。

1984年10月に広島大学教育学部専任講師、1987年4月に東京学芸大学教育学部専任講師、1990年4月に同助教授、1997年4月に東京都立大学人文学部助教授、2000年4月に東京大学大学院教育学研究科助教授、2007年4月に同教授を経て、2013年4月に日本女子大学人間社会学部教授として教育学科に赴任され、長年にわたって日本女子大学のために尽くしてこられました。2015年4月から大学院人間社会研究科委員長、2018年4月から日本女子大学理事（2019年3月まで）、2021年4月から2022年3月まで教育学科長を務められました。

ご専門は教育哲学・教育思想史、19～20世紀のドイツの教育思想がご専門で、『ヴァルター・ベンヤミンの教育思想——メディアのなかの教育』（世織書房、1998年）、『メディア・美・教育——現代ドイツ教育思想史の試み』（東京大学出版会、2015年）、『反自然主義の教育思想——〈世界への導入〉に向けて』（岩波書店、2022年）をはじめ、多くの著書、学術論文を刊行されています。当初から文字、絵画、映画など、「メディア」と教育の関係にもご関心があり、近年では『モノの経験の教育学——アート制作から人間形成論へ』（東京大学出版会、2021年）を出版されています。

学会でのご活躍も目覚ましく、1998年10月から現在に至るまで教育哲学会理事（2012年10月から2019年10月までは代表理事）、1997年9月から2021年9月まで教育思想史学会理事、2013年8月から2021年8月及び2004年8月から2011年8月まで日本教育学会常任理事（2009年1月から2010年12月まで『教育学研究』編集委員長、2006年8月から2007年8月まで日本教育学会事務局長）などの要職を務められた。人望に厚い今井先生のお人柄が表れています。

教育学科の目白移転統合の激変期に、教育学科、日本女子大学のために活躍された今井先生が去られることはとても寂しいです。今井先生に無理にお願いして先生の趣味をお聞きしたら、クラシックのコンサートに行かれることで、東京藝大の音楽教育の院生の指導に教育学の観点から関わられた縁で書かれた音楽教育研究ジャーナルに書かれた素敵なご報告に「(ベル

リン自由大学のある）高級住宅地ダーレム地区に行き、「ダーレム・ドルフ駅で降りる。居心地の良いカフェ「コルンフェルト」でエスプレッソを飲んで」という格調高い文章を見つけました。ベルリンに行く機会があったら真似してエスプレッソを飲んでみたいと思います。

これからの先生の益々のご活躍とご健勝を心から祈念いたしております。長い間、本当にありがとうございました。